



二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

似て非なるもの

ちいろば会業務執行理事 富田忠一

ちいろば園が福祉作業所として開設したのは、1989年5月21日でした。

開園式はしたものの、愛の園幼稚園の隣接地に建てたプレハブの小さな作業所は、もらい物の食卓机と椅子だけの殺風景な部屋でした。

三郷町からご紹介いただいた3人の通所者(木村さん、宿母さん、中島さん)と日替わりでお手伝いに来てくださるボランティアの方々と私で、「今日は何をしようかな?」と手さぐりの毎日でした。物、金、人すべて、無い無いづくしの作業所でしたが、夢と希望だけは山盛りの楽しい毎日でした。

11年間の無認可作業所時代を経て、2000年4月からは、法人化とともに現在の地に移転して、通所授産施設としての再スタートでした。その後、目まぐるしい制度改革の後、現在は、ちいろば園とグループホームのシンプルなスタイルに落ち着きました。

ちいろば園が開所した1989年はグループホームが制度化された年です。当時、在宅サービス(ホームヘルプ)は身体障害をもつ人たちだけにしか利用できず、知的障害をもつ人たちが利用できる唯一の制度がグループホームでした。しかし、「グループホームでの暮らしは軽度の人には無理」という実しやかな定説があり、中度、重度の知的障害をもつ人たちにとっては、「親が元気なうちは地域の福祉作業所へ通い、親が看れなくなったら入所施設へ」というのがスタンダードな暮らしでした。

1990年代には「ノーマライゼーション(障害者も一般市民と同等の権利や暮らしが保障される社会)」という言葉や考え方が広まり、障害当事者やその家族は、教育、就労、交通、暮らしと多岐にわたって運動を展開し、少しずつではありますが「ともに生きるための制度」を勝ち取ってきました。

2006年には「障害者自立支援法」、2007年には「特別支援教育」が制度化され、障害当事者やその家族が抱える療育、教育、就労、外出、介護等の暮らしに関わるニーズを充足させるための仕組みが実現しました。しかし、私はこのあたりからの障害者施策は少し様子が異なってきたように思います。

本来、障害当事者やその家族が望んだものは、「ともに生きるための～」でした。しかし、「障害者自立支援法」や「特別支援教育」で実現されたものは、「障害者(児)のための特別な～」なのです。障害当事者やその家族が抱える目先のニーズは充足され、利便性は向上しました。でも、私には今日の障害者施策の多くは、障害当事者が命を懸けて闘い追いついてきたものとは、『似て非なるもの』に思えてなりません。

ちいろば園が開設して30年、ちいろば園の活動が未だ、「障害をもつ人たちの特別な～」に留まっていることはないでしょうか。利用者のみなさんが主体的に活動できるよう職員は「ともに生きるための～」を創り出す支援を実行できているのでしょうか。30年を機にあらためて検証しなければなりません。



「気づき」・「感じる」・「変化」

グループホーム 主任 米田 守

最近、ニュースや新聞で子供の虐待問題が年々酷くなっていることをみます。児童相談所には年間10万件以上の相談が報告されているそうです。子どもの虐待はどうして起こるのか？なぜ、親がわが子を虐待するようなことが起こるのでしょうか？多くの場合、ひとつのことが原因ではなく、さまざまな要因が重なるなどしたとき、家族関係が不安定になり、子どもの虐待が引き起こされるといいます。

虐待は家庭だけでなく施設、職場などさまざまな場所、そして人間関係の中で起こります。虐待をしている人も、誰にも相談できず、気が付いたら虐待していたというケースもあります。

ちいろば会では利用者への虐待を防止するために支援の内容等を評価するために、法人内に職員だけでなく利用者の方々や外部の協力者を含めた「権利擁護委員会」を設置しています。権利擁護委員会が開催される前に職員は「虐待の芽チェック表」を事前に提出します。

チェック項目にはさまざまな内容（例えば・・・利用者に対して必要以上の大声で指示や注意をする等）があり、職員も日々支援のあり方を一度立ち止まって考え見直すきっかけにもなり、これまで自分が正しいと思い込んでおこなってきた支援が権利擁護委員会で他の職員や外部の方など指摘されることで間違った支援だったと気づく機会にもなります。特に利用者の方々からのダイレクトな意見や思いをお聞きすると強く心に響き気づかされます。

虐待は、特定の人や家庭だけで起こるものだけではなく、どこでも起こりうる身近な問題です。本人には虐待をしているという認識がない場合や、されている側も虐待だと認識できない、被害を訴えられない場合もあります。虐待は重大な人権侵害であり、ひとり、ひとりがこの問題に対する認識を深めることが虐待防止につながります。また人権侵害に気づかない組織や雰囲気ができるということが怖いと思います。日々の中でも「気づき」・「感じる」・「変化」ということが出来るようにしていきたいです。



おも
「思いをわかりたい」

ちいろば会グループホーム職員 阪口 寿久

まえ しょくぎょうがら しょうがっこうきんむ りようしゃ がくせいじだい はなし かつどう
前の職業柄(小学校勤務)、利用者さんとよく学生時代の話 をします。クラブ活動・
いいんかい えんそく しゅうがくりょこう うんどうかいなどわだい つ
委員会・遠足・修学旅行・運動会等話題は尽きません。皆、ほんの少し前のことのように
くわ おぼ なが たんにん せんせい はなし おお、しかもその先生が私の知り合い
詳しく覚えています。その中でも担任の先生の話が多く、しかもその先生が私の知り合い
だと大変盛り上がります。誰もが「僕のこと覚えてくれてるかな」と聞きに来ます。「教師
は、自分が受け持った生徒のことは絶対忘れてないよ」というと、喜んで「今度手紙書
う」と言う人も出てきます。

あるとき、Hさんと話をしていいる中で出身小学校の話題になりました。彼はその学校に
ねんせい はなし なか しゅっしんしょうがっこう わだい かれ がっこう
は5年生までしかいなかったのですが、野外活動の事を思い出し、キャンプファイヤーを
した時の担任の先生のスタンプまで覚えていました。そして突然「去年テレビを見ていた
らその先生が小学校の校長先生として出ていました」と言ったのです。その話を聞いて
かれ たの うれしかった思い出を知り、喜びを共有したいと考え「わかった。その小学校に連絡
してみよう」と2人で学校の電話番号を調べ、何とか連絡することができました。私が学校
に電話をかけ要件を伝え彼に替わりました。彼の声を聞くなり電話の相手は、大きな声で話
しかけ懐かしがっているのが彼の表情を見て分かりました。今まで見た事もない素敵な
えがお 2週間後、彼はその学校を訪ね先生に会いに行きました。先生は、彼の事を
ずっと気にしてくれていてよく覚えてくれていたそうです。短い時間でしたが大切な時間
が過ごせたようで生き生きとその時の様子を話してくれました。私も役に立てて嬉しかった
とと共に、Hさんとの距離が少し縮まった気がしました。

他の利用者さんについても、もっと気持ちをわかりたいという思いから、様々なことを
かんが 考えます。うまく伝わらなくて残念に思う時もありますが、そんな時は「何でやろ?」「次
はこんな方法でやってみよう」と再チャレンジしています。試行錯誤する中でほんの少し
だけですが笑顔が見られる場面もあり、言葉をかえしてくれると繋がりがもてたという
じっかん わ 実感湧きそれまでの苦勞が一気にふきとび、また次の笑顔が見たいと思うようになりま
す。

これからも、利用者さんの願いを深く知り、一緒に喜び合える支援をしていきたいと考
えています。

Fさんの作業活動

ちいろば園 生活支援員 新宮由士

今回は、軽作業2階の利用者Aさんと担当職員との関わりについてお話させていただきます。
Fさんは人見知りな面もありますが、慣れ親しんだ人に対してはちょっかいを出したり、ふざけてみたり等、人との関わりを楽しまれている場面が多くみられます。また、Fさんは食べることが大好きでいつも給食を楽しみにされています。

そんなFさんですが、担当職員が困っていることの一つとして作業活動の時間になっても中々作業室に入ってもらえないことが出来ないことということがあります。最近ではなく、以前から入るのに時間がかかってしまう、入れないということがつづいていました。作業室に入らないことで、呼びに来てもらい職員との1対1の関わりを求めているのではないかと、作業活動の時間がつまらなく感じてしまっているのでは、作業室自体に居づらさを感じているのでは等様々な推測を立て色々な取り組みをしてきました。以前取り組んだことの一つに給食の献立を皆に伝えるということがありました。朝の会の時に今日の献立、帰りの会の時に明日の献立を伝えるという内容です。Fさん自身に役割を持ってもらい作業室が自分の居場所として思ってもらえればと始めました。Fさんも自分の役割と覚えてもらえたのかそれからは朝の会、終わりの会に参加することが格段に増えました。しかし、作業活動となると部屋に中々入れないことはつづいていました。実際作業に参加している時は笑顔もみられたり、ふざけたりして楽しそうなのになぜだろうと疑問にも感じていました。そんなFさんですが去年頃から大きな変化がみられました。

昨年度より軽作業2階では室内での内職作業に加えブルーベリー畑の栽培やアルミ缶回収や缶つぶしなどの外作業も担当になり作業の幅が広がりました。すると室内の作業には中々参加することが出来なかったFさんが外作業なら自ら作業服に着替え進んで取り組まれる姿がみられました。アルミ缶つぶしの作業では自分が自分と積極的に取り掛かることや、畑の草抜きの作業でも休憩を惜しむほど頑張られています。そこには作業活動を通して新しいことを経験する喜びや楽しさなどを感じている様子が伺えます。

現在も、室内での作業には参加することに時間が掛かる、出来ないという状況が続いています。色々推測はするものの本当の理由はわかりません。ただ、作業に参加することだけを目的とした声掛けや促しになっていたのではと思うことがあります。室内の作業の中での楽しさ、やりがいを伝え、Fさんが安心して自分の居場所だと感じてもらえるような環境を整えていかなければならないと思っています。

グループホームのくらし しょうかい 紹介します！！

ここではグループホームを利用していらっしゃるみなさんがどのような暮らしをしているのかを紹介いたします。
今回は、5月11日(土)にグループホームのみなで平群中央公園へハイキングに行きました。この日は暑くなったのですが、芝滑りをしたり、ボール遊びをしたりして楽しい時間をすごしました。参加された方に感想を聞いています。



ハイキングに行きました
たのしかったです
おもしろく



ハイキングが今日行った楽しかった 西村昭彦



西田ケ美子
ハイキング
たのしかったです。



たのしかったです
すてきでした
おたのしかったです
小川あゆみ

おべんちうふくいのつを
かじおらたくま



ハイキングに、行ったこと
おべんちうおもしろかったです
石川 徹

ハイキングに
またいっかた
おもしろく

長尾良子
おるごはんとおやつを
みんなで食べた
おもしろく
また、おしゃべりいけたら
行きたいです。(日の出にぬふあ)



「^{おも}思いをわかりたい」

ちいろば会グループホーム職員 阪口 寿久

前の職業柄(小学校勤務)、利用者さんとよく学生時代の話(が)をします。クラブ活動・委員会・遠足・修学旅行・運動会等(は)尽きません。皆、ほんの少し前のことのように詳しく覚えています。その中でも担任の先生の話が多く、しかもその先生が私の知り合いだと大変盛り上がります。誰もが「僕のこと覚えてくれてるかな」と聞きに来ます。「教師は、自分が受け持った生徒のことは絶対忘れてないよ」というと、喜んで「今度手紙書こう」と言う人も出てきます。

ある時、Hさんと話(を)している中で出身小学校の話題になりました。彼はその学校には5年生までしかいなかったのですが、野外活動の事を思い出(し)、キャンプファイヤーをした時の担任の先生のスタンプまで覚えていました。そして突然「去年テレビを見ていたらその先生が小学校の校長先生として出ていました」と言ったのです。その話を聞いて彼の楽しかった思い出を知り、喜びを共有したいと考え「わかった。その小学校に連絡してみよう」と2人で学校の電話番号を調べ、何とか連絡することができました。私が学校に電話をかけ要件を伝え彼に替わりました。彼の声を聞くなり電話の相手は、大きな声で話しかけ懐かしがっているのが彼の表情を見て分かりました。今まで見た事もない素敵な笑顔でした。2週間後、彼はその学校を訪ね先生に会いに行きました。先生は、彼の事をずっと気にしてくれていてよく覚えてくれていたそうです。短い時間でしたが大切な時間が過ごせたようで生き生きとその時の様子を話してくれました。私も役に立てて嬉しかったと共に、Hさんとの距離が少し縮まった気がしました。

他の利用者さんについても、もっと気持ちをわかりたいという思いから、様々なことを考えます。うまく伝わらなくて残念に思う時もありますが、そんな時は「何でやろ?」「次はこんな方法でやってみよう」と再チャレンジしています。試行錯誤する中でほんの少しですが笑顔が見られる場面もあり、言葉をかえしてくれると繋がりがもてたという実感が湧きそれまでの苦勞が一気にふきとび、また次の笑顔が見たいと思うようになります。

これからも、利用者さんの願いを深く知り、一緒に喜び合える支援をしていきたいと考えています。

えいがかい こうえんかい
映画会 & 講演会のごあんない

こうえん いっぱんざいだんほうじん なら じんけんぶらくかいほうけんきゅうしよ
講演：一般財団法人奈良人権部落解放研究所

しよちょう おおひら かずゆき
所長 大平 和幸さん

にちじ ねん がつ にち ど
日時： 2019年 6月 8日 (土)

じようえい
上映 13:30~

こうえん
講演 15:30~

ばしよ えん かいがいぎしつ
場所：ちいろば園 2階会議室

さんかひ むりよう
参加費：無料

とうじつ えん おうじえきかん うんこう
当日は、ちいろば園⇄王寺駅間のバスの運行を

おこないます。利用希望の方は、事前申し込みが

必要です。

い おうじえき きたふんすいまえ
行き／王寺駅 (北噴水前) 12:50

かえ えん ごろよてい
帰り／ちいろば園 16:45頃予定



『祝の島』につづく
額縁あや監督作第二弾
 山形県映画祭 ワイドアングル部門 正式出品作品
 山形県ドキュメンタリー映画祭 日本プログラム部門 正式出品作品
 文化庁映画賞 文化記録映画大賞受賞
 第5回山形県文化賞受賞



ある精肉店のはなし

が たいけん
ブルーベリー狩り体験ができます！！



なつ おも で えん が
 夏の思い出づくりに、ぜひ！ちいろば園のブルーベリー狩りにおこしく下さい(^^♪

- **実施日時** 7月／19(金)、22(月)、24(水)、25(木)、26(金)
 29(月)、30(火) 31(水)
 8月／1(木)、2(金)、5(月)、7(水)、8(木)

うてんじ じっし おうそうだん
 雨天時の実施は応相談

じ じ ふん うけつけおよ じぜんせつめい ふん た ほうだい じかん
 10時～11時30分 (受付及び事前説明30分+食べ放題1時間)

- **料金**：500円 (中学生以上) / 400円 (3才～小学6年生) / 2才以下無料
 もち かえ べつとりようきん えん
 持ち帰りパック別途料金 (100g 300円)

- **申込**：各日 先着15名まで (要予約 当日9時まで受付可)

※実の状態によっては日程の変更や中止をお願いする場合がございます。ご了承ください。

- **お問い合わせ**：ちいろば園 (担当：新宮)まで 0745-72-1923

が すず みせ
ブルーベリー狩りのあとは、涼しいお店でごゆっくりどうぞ・・・(^^)/

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料(2019年2月1日~2019年3月31日)

篠原範子、本間結子、太田章一、日本基督教団高の原教会、日本基督教団大阪聖和教会、
金泉年郁、窪美代子、佐藤薫・美雪

以上 敬称は略させていただきます

＜人材募集＞

以下の内容で人材を募集しています・・・

1 ちいろば会の運営するグループホームの職員

① 宿泊勤務のできる女性職員

週あたり1回~2回程度、泊まり勤務のできる方

勤務時間： 16：30~翌9：30

② 土日の日中勤務と週あたり1回の泊まり勤務のできる方

勤務時間： 9：30~16：30

※ いずれも・・・ 雇用先はちいろば会です。

年齢は本法人規定により70歳未満の方

賃金は、日中 850円/時~、泊り 14,000円/泊

ご応募いただける方は、ちいろば会 担当：富田までご連絡ください。

TEL/0745-72-1923

—ちいろばだより年間購読料納入のお願い—

ちいろばだよりは、低料第三種郵便としてみなさまのお手元にお届けしています。

第三種郵便の条件のひとつとして、発行部数のうち一定割合が頒価による購読でなければ

なりません。多くのみなさまにちいろばだよりをご購読いただくために、年間購読料の納入

にご協力をお願いします。

年間購読料(年6回発行) 500円/年 (発送手数料込)

振り込み先 郵便振替 番号 00920-7-8583

名義 社会福祉法人ちいろば会後援会

※ 今号 同封の郵便振替用紙は振込手数料がかかりません。

KSKS ちいろばだより

編集人/ ちいろば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先/ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760

発行人/ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F